

教科	学校設定科目	科目	国語C	単位数	2	学年・コース	3年 総合/選択者
テキスト	『テスト式国語常識の総演習』京都書房 他			担当者	岩崎 真吾		
概要・ねらい	社会人として最低限の知識を視野に入れ、国語に関わる様々な分野の基礎的な知識を身に付ける。また、書く、聞く、話す、という作業を通して言語能力を磨き、表現豊かな人間を目指す。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	8 12 全20	<ul style="list-style-type: none"> 問題集 第1回～第2回 A 漢字を読む力 B 漢字を書く力 C ことばの力 D 文章表現・韻文・文学史・文法の力 小論文の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> 問題集 第3回～第5回 A 漢字を読む力 B 漢字を書く力 C ことばの力 D 文章表現・韻文・文学史・文法の力 面接に向けての基礎知識 	<ul style="list-style-type: none"> 高校卒業程度の漢字を理解できているか。 慣用表現、部首、対義語等を理解できているか。 近代俳句、短歌、文学の冒頭文を理解できているか。 小論文の書き方等を理解できているか。 <p>(1学期中間考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校卒業程度の漢字を理解できているか。 強調表現、外来語、四字熟語等を理解できているか。 近代俳句、短歌、文学の冒頭文を理解できているか。 面接に対するマナー等を理解できているか。 <p>(1学期期末考査)</p>			
	二学期	12 12 全24	<ul style="list-style-type: none"> 問題集 第6回～第8回 A 漢字を読む力 B 漢字を書く力 C ことばの力 D 文章表現・韻文・文学史・文法の力 手紙の書き方 <ul style="list-style-type: none"> 問題集 第9回～第11回 A 漢字を読む力 B 漢字を書く力 C ことばの力 D 文章表現・韻文・文学史・文法の力 	<ul style="list-style-type: none"> 高校卒業程度の漢字を理解できているか。 書き言葉と話し言葉、ことわざ、類義語等を理解できているか。 近代俳句、短歌、文学の冒頭文を理解できているか。 手紙の形式等を理解できているか。 <p>(2学期中間考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校卒業程度の漢字を理解できているか。 擬態語、月の異名、敬語表現等を理解できているか。 近代俳句、短歌、古典文学の冒頭文を理解できているか。 <p>(2学期期末考査)</p>			
	三学期		3学期は授業を行いません				
履修上の注意							
<p>学習到達目標達成のために、各自が積極かつ意欲的に授業に参加する必要があります。また授業の進行方法は解説及び板書が中心です、必ずノート及び筆記用具を用意し書き留めて下さい。なお授業だけではなく読書が国語の力を向上させるには不可欠です。可能な限り多くの本を読み、自ら文章に触れるようにすること。</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	問題解決の能力	技能・表現	知識・理解			
評価の観点の趣旨	言語を用いた表現に関心を持った姿勢で、演習に取り組んでいる。また様々な問題から意欲的に自己を追求する。	毎回の演習に向け、事前に準備が十分になされ、発表等で成果が認められる。またそれらが身に付いている。	「話す」「聞く」「書く」という言語能力に長け自分自身を表現できている。また他の理解を深められている。	高校三年生相当の国語知識、常識が身に付いており、それらを社会で活かす準備ができている。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への出席状況 授業での演習の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 発表への準備状況 課題の提出状況 	発表時の態度と姿勢	学期ごとの定期考査			

教科	学校設定科目	科目	地球の歩き方	単位数	2	学年・コース	3年 総合/選択者
教科書	『新詳地理B 初訂版』帝国書院			担当者	村田克則		
概要・ねらい	現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まつつ地理的認識を養うとともに、地誌的考察から世界の生活文化、民族・宗教と国家の関係などについて理解を深める。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	20	1. 東アジア ① 東アジアの自然・文化・歴史 ② 隣国である日本との関係 2. 東南アジア ① 東南アジアの自然・文化・歴史 ② ASEAN諸国の変化と日本との関係 3. 西アジア・中央アジア ① 西アジア・中央アジアの自然・文化・歴史 ② イスラム諸国の動向と日本との関係	●現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を深めさせると共に、地理的な見方や考え方を身に付けることが出来たか。 ●比較的近いアジアの国々の自然・文化・歴史を学び、日本とのこれからの関係を考察することができたか。 <<1学期期末考査>>			
	二学期	24	4. ヨーロッパ ① ヨーロッパの自然・文化・歴史 ② EUの形成とこれからの欧州のかたち 5. アングロアメリカ ① アングロアメリカの自然・文化・歴史 ② 世界の中のアメリカの動向 6. オセアニア ① オセアニアの自然・文化・歴史 ② 多文化主義と日本との関係	●現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を深めさせると共に、地理的な見方や考え方を身に付けることが出来たか。 ●欧米の国々の自然・文化・歴史を学び、日本とのこれからの関係を考察することができたか。 <<2学期期末考査>>			
	三学期		3学期は授業を行いません				
履修上の注意							
●授業にしっかりと取り組み、板書を写すこと ●配布されたプリントを保管すること ●課題、宿題などにしっかりと取り組むこと ●欠席、遅刻をしないこと ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現力	知識・理解			
評価の観点の趣旨	どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や生活・文化的な広がりとのかわりについて、意欲的に取り組むことができるか。	地理的事象や世界の生活・文化がなぜそこでどのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地域の環境条件や他地域との結び付きなどに関連して考えることができるか。	地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地理的技能を身に付けることができるか。	地理的認識を深める上で地図を活用することが大切であることに気付かせ、世界に関する地理的知識や地図作成に関する科学的知識を身に付けることができるか。			
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組む姿勢	●定期テスト ●課題等の提出			

教科	学校設定科目	科目	世界史演習	単位数	2	学年・コース	3年 総合/選択者
教科書	『詳説 世界史B』山川出版社 『最新世界史図説 タペストリー』帝国書院			担当者	齋藤 翔太		
概要・ねらい	古代文明の成立過程と発展を学ぶことで、現代世界における世界各国の関係性を理解する。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	20	中国の歴史について学習する。 イスラームの発展について学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ●積極的に事象を理解しようとしているか。 ●諸問題に対する自身の考えをまとめることができるか。 ●自身の考えを文章にまとめることができるか。 <p style="text-align: right;">《1学期期末考査》</p>			
	二学期	26	オリエント古代文明について学習する。 地中海世界の成立と発展について学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ●積極的に事象を理解しようとしているか。 ●諸問題に対する自身の考えをまとめることができるか。 ●自身の考えを文章にまとめることができるか。 <p style="text-align: right;">《2学期期末考査》</p>			
	三学期		3学期は授業を行いません				
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> ●板書をしっかり写すこと ●配布されたプリントを保管すること ●課題、宿題などにしっかり取り組むこと ●欠席、遅刻をしないこと <p>※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現力	知識・理解			
評価の観点の趣旨	現代の世界が当面する課題について考察し、戦争を防止し民主的な平和な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識できたか。	政治、経済、社会、文化、生活など様々な観点から歴史的な事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養えたか。	客観的かつ公正な資料に基づいて、事実の正確に理解し、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成できたか。	諸地域世界、交流圏、国際関係の展開などを、比較文明的視点からもとらえ、各時代における世界の中での日本の位置を理解したか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ●授業への出席状況 ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●課題等の提出 			

教科	学校設定科目	科目	日本史演習	単位数	2	学年・コース	3年 総合/選択者
教科書	『詳説 日本史B』山川出版社 『新詳 日本史』浜島書店		担当者	成澤 可奈子			
概要・ねらい	わが国の歴史の始まりと展開を世界的視野にたち総合的に考えさせ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を考え深めることにより歴史的な考えを養い、国際社会に生きる日本人としての資質を養い表現できることを育成する。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	10	第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立	●自然環境や大陸文化の影響、人類の共通点などに着目できたか。 ●なぜ稲作が始まったのか、大陸との関連、道具の発達国への発達などを理解しているか。 《1学期中間考査》			
		10	第1章 日本文化のあけぼの 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	●大陸との関連、なぜ墳墓が出てきたのか、小国から国への発達が理解されているか。 《1学期期末考査》			
	二学期	13	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家の成立	●大和政権の発展から国の基礎が出来上がっていく過程が理解されているか。 ●国の基本となる法の制定、大陸(隋・唐)との関係、民衆の生活が理解されているか。 《2学期中間考査》			
		13	第2章 律令国家の形成 3 平城京の時代 5 平安朝廷の形成	●律令国家建設の歩みが本格的に進められ、平城京の時代に古代国家を現出し、平安朝廷の形成までが理解されているか。 《2学期期末考査》			
	三学期		3学期は授業を行いません				
履修上の注意							
●授業は板書したりプリント等を利用するので、必ずノートを用意してください。							
●課題の提出に関しては評価にも影響しますので、必ず提出するようにしてください。							
※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現力	知識・理解			
評価の観点	我が国の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	日本の歴史から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を日本史的視野に立つて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	日本の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	日本の歴史についての基本的な事柄を、東アジア・ヨーロッパの歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。			
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組む姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組む姿勢	●定期テスト ●課題等の提出			

教科	学校設定科目	科目	数学B	単位数	2	学年・コース	3年 総合/選択者
教科書	『Study-Up 数学B』数研出版			担当者	板垣 和希		
概要・ねらい	数列やベクトルについて理解させ、その概念は現実に応用が出来るものであり、事象を数学的に考察し処理する能力を育むとともに、数学的な見方や考え方の良さを実感できるようにする。また、数学的帰納法などに代表される、数学Bで学ぶ知識が、「生きる力」として身に付くようにする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	3	第1章 数列 1節 数列 等差数列・等差数列の和	数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解し、等差・等比数列の一般項や和を求めることが出来る。 (中間考査)			
		3	等比数列・等比数列の和				
	一学期	4	和の記号 Σ	数列の帰納的定義について理解し、簡単な漸化式を扱うことが出来る。また、帰納的な考え方の良さに気づき、等式や不等式の証明に利用することが出来る。 (期末考査)			
4		いろいろな数列					
二学期	3	2節 漸化式と数学的帰納法 漸化式	平面上のベクトルの概念を理解し、ベクトルに関する基本的な用語・記号を理解している。また、ベクトルの加減法や内積を理解し、問題に応用が出来る。 (中間考査)				
	3	数学的帰納法					
二学期	4	第2章 ベクトル 1節 平面上のベクトル ベクトルの意味	位置ベクトルについて知り、図形の問題をベクトルを利用して解くことが出来る。また、平面上の直線や円などの図形が、ベクトルを用いて表現されることを知ること、身近な事象に置き換えて考えることが出来る。 (期末考査)				
	4	ベクトルの加法・減法・実数倍					
三学期	3	ベクトルの成分	3学期は授業を行いません				
	4	ベクトルの内積					
三学期	3	2節 ベクトルの応用 位置ベクトル					
	4	図形のベクトル方程式					
三学期	3	ベクトルの図形への応用					
	3						
履修上の注意							
授業では毎回教科書・ノートを準備し、板書は必ずとること。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解			
評価の観点	数学的な活動を通して数列・ベクトルの考え方や思考に興味・関心を持ち、様々な事象をその考え方で考察しようとしているか。	事象を数学的にとらえることができ、数学的な見方や考え方を思考の過程を振り返ることが出来るか。また、活動を通して多面的・発展的に考えることが出来るか。	いろいろな問題に触れる中で、身近な事象を用いて数学的な考え方を基に、その事象を表現する方法を身につけることが出来るか。	いろいろな問題を解決する活動の中で、身近な例を数列・ベクトルで表すことの良さを理解し、応用も含めた知識を身につけることが出来るか。			
評価方法	授業への出席状況 授業への取り組む姿勢 ノートチェック	授業への取り組む姿勢 ノートチェック 定期考査	授業中の解答 課題提出 定期考査	授業中の解答 課題提出 定期考査			

教科	選択C	科目	古生物学	単位数	2	学年・コース	3年総合
教科書	プリント			担当者	大迫 崇史		
概要・ねらい	生物進化の歴史を理解する 古生物学の研究手法について理解を深める 化石の産状と成因について理解する						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	20	第1回 ガイダンス 科学の方法と階層性 第2回 古生物学と化石 第3回 古生物学の研究法 生物学的アプローチ① 第4回 古生物学の研究法 生物学的アプローチ② 第5回 古生物学の研究法 地質学的アプローチ① 第6回 古生物学の研究法 地質学的アプローチ② 第7回 化石の産状と成因① 第8回 化石の産状と成因② 第9回 ミクロの化石① 第10回 ミクロの化石②	古生物学の研究法を理解できているか 化石の産状と成因について理解できているか 授業ごとの課題に取り組み提出できているか			
	二学期	26	第11回 先カンブリア時代① 第12回 先カンブリア時代② 第13回 古生代① 無脊椎動物の進化 第14回 古生代② 脊椎動物の誕生・進化 第15回 中生代① 恐竜の出現 第16回 中生代② 爬虫類の発展 第17回 中生代③ カメ類の進化 第18回 中生代④ 恐竜の絶滅 第19回 新生代① 鳥類の発展 第20回 新生代② 哺乳類の進化・発展 第21回 新生代③ 日本列島の誕生と環境の変化 第22回 新生代④ 人類への進化 第23回 学年末レポート作成	生物進化の歴史を理解できているか 地球の歴史の時間スケールを理解できているか 授業ごとの課題に取り組み提出できているか			
三学期		3学期は授業を行いません					
履修上の注意							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理	知識・理解			
評価の観点	・生物進化の歴史に関心を持ち、意欲的に探究し、総合的にとらえらるとともに科学的態度を身につけているか。	・それぞれの分野において、事実や仕組みなどを考え、その特徴や法則、働き、利用などを導き出せるか。	・自らの考えをもとにして適切に表現できるか。	・基本的な概念や原理、法則を理解し、知識、技能を身につけているか。			
評価方法	・授業への出席状況 ・授業に取り組む姿勢 ・課題等の提出状況	・定期レポート ・授業に取り組む姿勢 ・課題等の提出	・定期レポート ・課題、レポートの提出	・定期レポート			

教科	学校設定科目	科目	音楽選択	単位数	1	学年・コース	3年 総合/選択者
教科書	自主教材・音楽の友社等の譜面をプリント化 オリジナルのアレンジ・バイエルピアノ教本			担当者	佃 馨		
概要・ねらい	譜面を見ながら演奏したり歌唱したりする力を身につけ、色々な楽器に触れ、表現と鑑賞・製作(創作)等の活動を通じ、より深く音楽を愛好する心を養う。 保育技術検定において、より高い級の取得を目標とする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	18	ピアノ演習 バイエルNO30番～NO47番の練習 ・独自のピアノエチュードを使用 ・ポータートーンを使用した個人練習を実施	譜面を正確に読む事が出来るか。 しっかりと練習に取り組む事が出来たか。			
		18	幼児教育に必要な歌唱の練習 ・リズム打ちを含めた歌唱の練習	正確にリズムを打つ事が出来るか。 音程や表情に注意しながら歌う事が出来るか。			
		8	器楽演習 ・リコーダーとハンドベルの演奏 ・鍵盤楽器の演奏	譜面を読みながら、正確に演奏する事が出来るか。 ※ 級別実技試験に則った検定を行なう。			
	二学期	22	ピアノ演習 バイエルNO48番～NO104番の練習 ・独自のピアノエチュードを使用 ・ポータートーンを使用した個人練習を実施	譜面を正確に読む事が出来るか。 しっかりと練習に取り組む事が出来たか。 ※ 個人指導を行なう			
		22	幼児教育に必要な歌唱の練習 ・リズム打ちを含めた歌唱の練習 ・音楽劇に取り組む(ぐりとぐらのえんそく 等)	正確にリズムを打つ事が出来るか。 音程や表情に注意しながら歌う事が出来るか。 音楽の創作や工夫が出来るか。			
22		器楽演習 ・リコーダーとハンドベルの演奏 ・鍵盤楽器の演奏	譜面を読みながら、正確に演奏する事が出来るか。 ※ 級別実技試験に則った検定を行なう。				
三学期		3学期は授業を行いません					
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> ● 授業は教科書とプリントを使用して行う。自己の取り組みを自身で評価し、次の実技項目に生かす。 ● 器楽の授業においては、積極的な取り組みが必要である。創作に於いては、自主性が必要である。 							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	表現の能力			
評価の観点の趣旨	色々な楽器の演奏方法を通じて、音楽をより楽しむ力を高め、メロディーを自ら作り、音として表現する事の喜びを知る。	譜面を読み取り、自ら音として表現する姿勢を養う。 楽器や歌唱を通じて、音楽に対しより深い興味を抱くように、事前の調べを工夫し努力する。	発声・音色・音程に留意し、 楽曲を正確に表現すると共に、 強弱やテンポなどの個人的な表現を工夫し発表する。	多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを他の人物に伝える努力をす			
評価方法	授業の出欠状況 取り組む姿勢 提出物等	授業の出欠状況 取り組む姿勢 提出物等 発表	授業の出欠状況 取り組む姿勢 発表	取り組む姿勢 学習プリントの提出			

教科	学校設定科目	科目	総合美術	単位数	1	学年・コース	3年 総合/選択者
教科書	自主教材			担当者	岡田 敬子		
概要・ねらい	<p>様々な素材を用い、幼児教育にふさわしい実践的学習を行う。 身近にある素材や生活品の制作を通し、豊かな感性を養うことを目的とする。</p>						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	8	モビール(動く彫刻)	色彩と形の効果を生かし、視覚的に面白い立体を表せたか。 作品を動かしたときの様子を面白く表せたか。			
		8	スタンドグラス風灯かり(照明具)	光と影を効果的に使い、自らのテーマに沿って作成できたか。 テーマに物語性を持たせることができたか。			
	二学期	8	お面(マーブリング彩色)	実際のお芝居を想定し、表情のある造形が表せたか。 スケッチから立体にイメージに沿って表現できたか。			
8		銅版レリーフ	一枚の銅版にストーリー性のある図柄を考えることができたか。				
8		季節を表す壁飾り	子どもの視点に立ち、楽しい飾りを考えることができたか。 素材を工夫し季節感を表すことができたか。				
三学期		3学期は授業を行いません					
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教材(モチーフ、道具等)は自ら準備し、教室をきれいに使用すること。 ・流しに直接、絵具等を流さないこと。流しは常にきれいに保つこと。 						
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞理解			
評価の観点の趣旨	幼児のための美術作品を考えたか	豊かに表現し大きな視点で物を捉えることができる。	創造的な表現をするための様々な工夫をしている。 用具の使い方を理解できたか。	優れた作品への理解と知識を養う。			
評価方法	積極的な姿勢をもつこと。 完成度を重視する。	実技作品の完成度。 授業への積極的参加。	実技作品の完成度。 授業への積極的な取り組みの姿勢。	観察力を養う。 授業への取り組む姿勢。			

教科	学校設定科目	科目	GTEC講座	単位数	2	学年・コース	3年総合/選択者
教科書	GTEC for Students STEP UPノート			担当者	新井 悠平		
概要・ねらい	<p>GTEC受験対策をし、各自のスコアを伸ばせる授業を行う。</p> <p>授業内では4技能のうち、GTEC for Studentsで課されるReading, Listening, Writingについて集中的に取り組む。</p> <p>学年末受験のGTEC for StudentsにてGRADE4以上のスコア取得を目標とする。</p>						
年間授業計画	一学期	2	1 GTECについて、学習計画	・GTECについて理解をし、目標、学習計画を立てる。			
		2	2 G1 Reading PartA・B/G2 Reading PartC G1 Listening Part A・B/ G2 Listening Part A G1 Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・英文を前から順に戻らずに読もう / ストーリーの流れを読み取ろう ・状況をイメージしながら聞き取ろう / 状況のイメージをつなげながら聞こう ・まず、アイデアを出して、簡単な英語で表現してみよう 			
		2	3 G3 Reading Part A・B / Part C G3 Listening Part B / Part D G2 Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・文と文のつながりを意識しよう / 段落ごとのメッセージをとらえよう ・応答のバリエーションを広げよう / 会話や話の展開についていこう ・1文をながくして、より高度な文を書こう 			
		2	4 G4 Reading Part B / Part C G4 Listening Part D G3 Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・背後に隠れている内容を読み取ろう / 段落と段落のつながりを押さえよう ・会話や話の自然な流れを理解しよう / 豊かな言語表現を味わいながら聞こう ・論理的な流れのある文章を書こう 			
		2	5 G1～2 Reading Part A・B・C G1～2 Listening Part A・B・C・D G1～2 Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙・文法問題、概要把握問題、情報検索問題、要点理解問題 ・イラスト説明問題、会話応答問題、課題解決問題、要点理解問題 ・意見展開問題 			
		2	6 プレテスト実施				
		2	7 GTEC for Students テスト実施				
	二学期	2	8 学習計画	・1学期に受験したGTECの結果を受け、目標・計画を立てなおす。			
		2	9 G5 Reading Part A・B G5 Listening Part A・B G4 Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・説明の流れを整理して論旨をつかもう ・適した応答を考えながら聞こう ・読み手にわかりやすく多角的な視点から文章を書こう 			
		2	10 G5 Reading Part C G5 Listening Part D G5 Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・段落ごとの論旨をまとめながら読もう ・会話や話の内容をまとめて整理しよう ・読み手を意識して、説得力がある文章を書こう 			
		2	11 G3～G4 Reading Part A・B・C G3～G4 Listening Part A・B・C・D G3～G4 Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙・文法問題、概要把握問題、情報検索問題、要点理解問題 ・イラスト説明問題、会話応答問題、課題解決問題、要点理解問題 ・意見展開問題 			
		2	12 プレテスト2				
2		13 G6・G7 Reading Part C G6・G7 Listening Part D G6・G7 Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きた」英語を考えながら読み進めよう ・「生きた」英語を聞きながら考えよう ・いろいろなパターンの魅力的な導入を使って質の高い英文を書こう 				
三学期	2	14 G5～7 Reading Part A・B・C G5～7 Listening Part A・B・C・D G5～7 Writing	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙・文法問題、概要把握問題、情報検索問題、要点理解問題 ・イラスト説明問題、会話応答問題、課題解決問題、要点理解問題 ・意見展開問題 				
	2	15 GTEC for Students テスト実施					
3学期は授業を行いません							
履修上の注意							
<p>1 真面目に授業に参加すること。</p> <p>2 辞書、ノート、筆記用具を必ず持参すること。プリントをそのつど配布するので無くさないようにファイルしておくこと。</p> <p>3 ワークシートを配布するので無くさないようファイルしておくこと。</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	英語的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解			
評価の観点の趣旨	出席、取り組み姿勢 積極的な取り組み、姿勢	日常生活から英語での表現を意識できているか。	自らの表現したい事を適切に英語で表現できるか。	英語表現を含む、英語文化の理解ができているか。			
評価方法	出席、発言 授業への取り組み姿勢	授業への取り組み姿勢 スピーキングテスト	スピーキングテスト ライティング課題	ライティング課題 授業内発表			

教科	学校設定科目	科目	食物	単位数	2	学年・コース	3年 総合/選択者
教科書	『調理BOOK』基礎 応用 理論 実教出版			担当者	江波戸純子		
概要・ねらい	2年次に学んだ食物の知識・技術を基本にし、食物検定受験をすることで、さらに詳しく調理についての知識・技術を習得する。また、よく目にする加工食品や日本の伝統料理について、調査・研究した上で、実際に調理をする。食品についての知識を習得するために、テーマを決めた調理実習をする。						
年間授業計画	一学期	2	オリエンテーション	今後の流れを把握し、理解できたか。			
		1	食物検定4級実技内容練習	食物検定4級の内容を含め、調理の基礎が理解できたか。			
		1	食物検定4級内容VTR	VTR「調理の基礎知識」			
		2	手量り・目測・いろいろな切り方実習	調理の基礎実習として、物の重さと分量の目安を理解できたか。また、材料の切り方の技術と知識を理解できたか。			
		2	基本だしのとり方	日本料理の基礎であるだしについて理解できたか。			
		2	「味噌」調理実習	日本の伝統的加工食品の作り方を理解できたか。			
		2	「だんご」調理実習	「米」を原材料にした加工食品について理解できたか。			
		2	テーマ「米」の調理実習	また、普段食べているものの作り方が理解できたか。 米を中心として献立を考え、実習することができたか。 《レポート「米」》			
		2	食物検定4級受験	調理・栄養の基礎を理解できているか。			
	2	食物検定3級内容調理実習	食品の特性を理解し、調理の手順を考え、おいしく、見栄えよい調理ができたか。				
	2	食物検定3級受験	1つの料理を作る材料・手順を理解できたか。				
	二学期	2	献立の立て方	いろいろな調理法、栄養のバランスを理解しながら献立を立てる手順が理解できたか。			
		2	「きつねうどん」調理実習	「小麦粉」の調理性、油揚げ、だしの取り方を理解できたか。			
		2	「パン・ジャム」調理実習	「小麦粉」と「砂糖」について理解できたか。			
		2	「マカロニグラタン」調理実習	「小麦粉」の調理性のドウとルーを理解できたか。			
2		テーマ「小麦粉」の調理実習	「小麦粉」の特性を生かした調理ができたか。				
2		「ハンバーグ」調理実習	「肉」の特性について理解できたか。				
2		テーマ「肉」の調理実習	「肉」の特性を生かした調理ができたか。 《レポート「小麦粉」「肉」》				
2		テーマ別献立作成・調理計画	バランスの良い献立か。調理手順に無駄は無いのか。				
2		文化祭準備					
2	「お弁当」調理実習	「お弁当」に適切な献立・調理法をし、彩りよくお弁当箱につめることができたか。 《レポート「お弁当」》					
三学期	2	「日本の行事食」調理実習計画	伝統的な行事食を理解し、自分の生活に取り入れる工夫ができたか。				
	2	「おせち料理」調理実習	「おせち料理」の調理手順を理解できたか。				
	2	「X'masパーティー」調理実習	「パーティー料理」の献立・調理手順を理解できたか。				
3学期は授業を行いません							
履修上の注意							
実習重視の授業です。それぞれの学期ごとに提出するレポート・作品などがあるので、期日を守りきちんと提出して下さい。またそれぞれの内容を理解した上で実践していきますので、積極的な姿勢で授業に臨んでください。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	技能・表現	知識・理解	思考・判断			
評価の観点の趣旨	食に対して関心を持ち、食材や調理に対する知識・技術を習得する姿勢と実習に対する積極的態度が見られる。	食材・調理法の知識・技術を習得し、味・栄養・見た目・調理法のバランスを考えた献立を立て、実際に調理をする能力が身についている。	食材・調理法の知識・技術が身についている。	基礎を学び、その場にあった献立を考え、様々な食材に対応した調理法を選ぶなど、食に対しての問題に適切な対応をすることが出来る。			
評価方法	授業の出席状況 授業に取り組む姿勢 レポートの提出	献立レポートの提出 実習に取り組む姿勢 料理の味・見た目のバランス	食物検定受験 レポートの提出	授業に取り組む姿勢 問題解決の方法			